

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 1 月 30 日 (2020.1.30)

【公開番号】特開 2018-167215 (P2018-167215A)

【公開日】平成 30 年 11 月 1 日 (2018.11.1)

【年通号数】公開・登録公報 2018-042

【出願番号】特願 2017-68318 (P2017-68318)

【国際特許分類】

B 0 1 J 35/04 (2006.01)

B 0 1 D 53/94 (2006.01)

F 0 1 N 3/28 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 35/04 3 0 1 C

B 0 1 J 35/04 Z A B

B 0 1 D 53/94 2 8 0

B 0 1 D 53/94 2 4 5

B 0 1 D 53/94 2 2 2

F 0 1 N 3/28 3 1 1 R

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 12 月 11 日 (2019.12.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 8】

次に、得られたハニカム乾燥体を脱脂した。脱脂は、4 5 0 で 5 時間行った。次に、脱脂したハニカム乾燥体を焼成して、ハニカム焼成体を得た。焼成は、大気中、1 4 2 5 で 7 時間行った。なお、1 2 0 0 から 1 4 2 5 までの昇温は 5 時間とした。このようにして、実施例 1 のハニカム構造体を作製した。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

得られたハニカム構造体は、以下のような領域 A と、この領域 A を取り囲む領域 B とが形成されていた（図 2 参照）。領域 A は、セル内に突出する突起部の数が、全てのセルに対する突起部の平均個数よりも多いセルによって構成された領域である。領域 A においては、図 3 に示すように、断面四角形のセルの各隔壁から 2 つずつの突起部が突出し、1 つのセルに合計 8 個の突起部が形成されていた。また、領域 B においては、断面四角形のセルの各隔壁には当該隔壁から突出するような突起部が設けられていなかった。即ち、領域 B において、1 つのセルの突起部の個数は、0 個となっていた。このハニカム構造体は、先端曲率半径 R が 0 . 0 2 5 mm であった。また、突起部の高さ H は、0 . 1 4 mm であり、セルの水力直径 A は、0 . 9 0 mm であった。そして、 H/A （突起部の高さ H / セルの水力直径 A）は、0 . 1 6 であった。更に、得られたハニカム構造体は、全ての突起部について、突起部の側面が隔壁の表面に対して、4 5 ° の傾斜角を有するものであった。得られたハニカム構造体は、上記口金の形状が反転した形状と同じ形状であった。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0080

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0080】

[総合判定]

圧力損失の評価と L A - 4 試験の判定に基づいて以下の基準により総合判定を行った。
圧力損失の評価と L A - 4 試験の評価が共に「OK」である場合を「OK」とし、それ以外の場合を「NG」とした。